

令和6年度 江戸川区立本一色小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○考える子 ○やさしい子 ○たくましい子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○基礎・基本の定着を確実にし、確かな学力を身に付けられる学校。 ○教師一人一人がやりがいを感じ、情熱をもって教育活動を実践できる学校。 ○家庭・地域と協力し、心豊かな児童が育つ学校。 ○学校や地域の歴史、環境を大切に、故郷として誇りがもてる学校。
前年度までの本校の現状	成果 ○友だちの話を最後まで聞く児童が増えた。他者意識の姿勢が見られるようになった。 ○授業で考える場面を工夫することにより、思考力・表現力を伸ばした。	課題 ○基礎・基本の確実な定着。 ○自分の考えを適切な言葉で話したり、相手の話を丁寧に聞いたりする姿勢をさらに身につけさせること。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・学校と民間事業者による放課後補習教室の実施 ・「本小スタンダード」の定着	・放課後補習教室への登録率100% ・「本小スタンダード」が身につけている児童を90%以上にする	B	A	B	・登録率は70%である。10月からは1年生も登録するので、さらに補習教室の充実を図る。 ・「本小スタンダード」は80%の児童が身に付けている。	B	A	・今後も個に応じた指導の充実をお願いしたい。 ・子供たちに応じた学習指導をお願いしたい。				
	○読書科の更なる充実	・図書館を使った調べる学習コンクールの取り組み	・応募率を3年生以上は100%、1、2年生は20%以上	B	B	B	・3年生以上の応募率は、90%、1、2年生は10%弱であった。	B	・活字を読む機会がなくなってきている。					
	○個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・毎週、朝15分間の運動タイム実施	・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が体力を高めようとしていると回答	A	A	A	・毎週運動タイムを継続している。85%の児童が体力を高めたいと回答している。	A	・85%の児童が体力を高めたいという意欲があることはよいことだと思う。					
体力の向上		・学期に1回のなわ跳び週間の設定	・児童アンケートの結果で、80%以上の児童が縄跳びに楽しく取り組むことができたという回答	A	A	A	・なわ跳び週間を毎学期実施している。85%の児童が楽しく取り組むことができたという回答している。	A	・縄跳びに全体で取り組むのはよい取り組みだと思う。					
実現に向けた教育の推進 共生社会の	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・巡回指導や特別支援教室専門員の活用、日本語指導員や日本語教室との連携	・毎月1回、通常学級担当教員と特別支援教育担当教員の打ち合わせを実施	A	A	A	・毎月1回以上、打ち合わせを行い、児童についての情報交換を行い、指導に生かすようにしている。	A	・連携して指導に当たることが大事なので続けてほしい。					
	○エンカレッジルームの活用促進	・エンカレッジルーム（ほっとルーム）の保護者への理解啓発	・年度初め、年度終わりの全学年の保護者会でエンカレッジルーム（ほっとルーム）を紹介	A	A	A	・保護者会や学校説明会で理解啓発を行った。今後も続けていく。	A	・ほっとルームが子供たちの居場所になっていることはよいことだと思う。					
	○副籍交流、交流及び共同学習の実施充実	・年間指導計画に基づいた交流及び共同学習の実施	・各学期1回以上の実施	A	A	A	・鹿本学園との交流や副籍交流を各学期1回以上実施している。	A	・鹿本学園等に近く学校間の連携にとっても恵まれた環境にあると思う。					
不登校・いじめ対策	○豊かな心の育成	・委員会活動や係・当番活動、異学年交流などの充実	・児童へのアンケート結果で、80%以上が係・当番活動をしっかりやっているという回答	B	B	B	・約70%がしっかりとできている。引き続き指導していく。	A	・みんなで協力してひとつのことをやり遂げてもらえるといいと思う。					
	○hyper-QUの活用	・hyper-QUテストの児童の実態把握に基づいた指導の推進	・児童アンケートの結果で、90%以上の児童が学校が楽しいという回答	A	A	A	・児童アンケートでは、95%の児童が、学校が楽しいと回答している。	A	・学校に来るのが楽しいことは何よりである、児童の授業へのモチベーションが下がらないように頑張ってもらいたい。					

心の充実	○教育相談の強化	・スクールカウンセラー、 スクールソーシャルワーカーとの連携強化	・不登校児童とのSC、SSW連携率100%	A	A	・SC、SSWとの連携率は、約80%である。今後も連携を強化していく。	A	・言葉にできない子もいると思う。じっくり話を聞いて、心の内を汲み取ってSSWの活用へつなげてほしい。SSWが心強い。					
	学校（園）の地域社会に開かれたの実現	○学校（園）ホームページの充実等	・学校ホームページの更新	・こまめに更新しタイムリーな情報を伝える	A	A	・ホームページはこまめに更新し、タイムリーな情報を伝えることができた。	A	・SNSについては子供のうちから教育していくことが大事だと思う。				
		○学校関係者評価の充実	・児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施	・各学期に1回実施	A	A	・各学期にアンケートを実施し、改善に生かしている。	A	・公開などで子供たちの様子を知ることができた。				
教育の特色ある展開	○働き方改革の推進	・月1回の定時退勤日の設定	・平均退勤時刻を19時までに収める	A	A	・月1回の定時退勤日を生かしている。平均退勤時刻を19時までに収めることができています。	B	・19時以内でも遅いように感じる。					
	○教員研修の実施	・教員の組織的な育成	・全教員年3回の授業公開	A	A	・授業公開を2回実施済みである。	A	・忙しい中、熱心に取り組んでいる。					
	○異学年交流による思いやりの心の醸成	・異学年集団「あすなろ班」活動を年10回以上実施	・児童へのアンケート結果で、80%以上が人が困っているときは、すすんで助けていると回答	A	A	・あすなろ活動は活動を工夫している。97%の児童が人が困っているときは、すすんで助けていると回答している。	A	・あすなろ班活動の成果が出ている。					